

◆肝臓の働き

肝臓は右の肋骨に守られるようにして存在するヒトの体で最も大きい臓器で、体重の約50分の1を占めています。肝臓の主な働きは3つあります。1つ目は、私たちの身体に必要な蛋白の合成・栄養の貯蔵。2つ目は、有害物質の解毒・分解。3つ目は食べ物の消化に必要な胆汁の合成・分泌です。肝臓は「沈黙の臓器」と言われ、自覚症状がないまま病気が進行してしまいます。早期に一度、肝炎ウイルスへの感染の有無を調べて、感染が分かった場合は、必要な定期検査や適切な治療を実施すれば、肝硬変・肝がんの発症を予防することができます。

◆肝炎とは

肝炎とは「肝臓に炎症が起きている状態」、すなわち肝臓の細胞が破壊されている状態を指します。原因別に、以下のような種類に分けられます。

- 1.ウイルス性肝炎：肝炎ウイルスによる肝炎
- 2.薬剤性肝炎：薬物や毒物、化学物質による肝炎
- 3.アルコール性肝炎：アルコールによる肝炎
- 4.自己免疫性肝炎：異物を攻撃するための免疫系が、自分自身を攻撃してしまうことによる肝炎

日本では、肝炎の多くが「**1.ウイルス性肝炎**」と言われています。

わが国のウイルス性肝炎の持続感染者は、B型が110万人～140万人、C型が190万人～230万人存在すると推定されています。

感染時期が明確ではないことや自覚症状がないことが多いため、適切な時期に治療を受ける機会がなく、本人が気付かないうちに肝硬変や肝がんへ移行する感染者が多く存在することが問題となっています。

肝炎ウイルスとしては、A型、B型、C型、D型、E型が確認されており、わが国の感染者のほとんどがB型とC型です。このうちB型肝炎は減少傾向にありますが、逆にC型肝炎の感染者が目立ってきました。

◆ウイルス性肝炎

・肝炎ウイルスに感染して、肝臓の細胞が壊れていく病気です。本来肝臓は再生能力が高く、例えば手術でその半分以上を切り取っても元の大きさまで再生できるほど丈夫な臓器ですが、この病気になると徐々に肝臓の機能が失われていき、ついには肝硬変や肝がんといった、再生すらも不可能な病気に進行してしまいます。

・肝炎ウイルスは、血液を介して人から人へと感染します。

◆B型肝炎

B型肝炎ウイルスに感染することで発症するウイルス性肝炎の一つです。

血液を介して感染するため、従来の検査体制が確立されていない時期に輸血を介して、または1986年に母子間ブロックが実施されるようになる前には母子間で感染しました。成人になってB型肝炎に感染すると肝臓の細胞が破壊されて肝臓の働きが悪くなることがあります。ほとんどの場合は一過性で自覚症状も出にくいいため、気づかないうちに、終息します。まれに劇症肝炎など、症状が重くなることもあるため注意が必要です。

一方3歳までの乳幼児がB型肝炎に感染すると持続感染（キャリア）になります。肝炎を発症しない無症候性キャリアの方が9割を占めますが、1割の方は肝炎を発症し肝硬変や肝がんへ進展します。感染の仕方やウイルスのタイプによって、病気の進行の仕方に違いがあることがわかっています。

◎感染の予防策として：注射器を共用しない。性行為時にコンドームの着用など。

◎B型肝炎予防として：ワクチン接種

◎主な治療法として：インターフェロンや核酸アナログ製剤を用いた抗ウイルス療法

◆C型肝炎

C型肝炎ウイルスに感染することで発症するウイルス性肝炎のひとつです。かつては非A非B型肝炎と呼ばれていました。

C型肝炎は慢性化しやすく、感染した人の約7割が慢性肝炎を発症し、放置しておくと肝硬変、肝がんへと進展することがあります。

日本の肝がんの原因で最も多いのがC型肝炎で、約7割を占めます。患者さんの半数以上は50歳以上で、男性のほうが女性より病気の進行が早い傾向にあり、女性は男性より10年から20年遅れて病気が進行します。

◎C型肝炎予防として：有効なワクチンは実用化されていない

◎主な治療法として：インターフェロンや抗ウイルス療法

◆主な感染経路

- ・肝炎ウイルスが含まれている血液の輸血等を行った場合
- ・注射針・注射器を肝炎ウイルスに感染している人と共用した場合
- ・肝炎ウイルス陽性の血液を傷のある手で触ったり、針刺し事故を起こしたりした場合（特に保健医療従事者は注意が必要です。）
- ・肝炎ウイルスに感染している人が使用した器具を、適切な消毒を行わずにそのまま用いて、入れ墨やピアスの穴あけなどをした場合

また、B型肝炎ウイルスでは、下記のような感染経路も考えられます。

- ・B型肝炎ウイルスに感染している人と性交渉をもった場合
- ・B型肝炎ウイルスに感染している母親から生まれた子に対して、適切な母子感染措置を講じなかった場合

したがって、肝炎ウイルスの感染予防にあたっては、他人の血液に安易に触れないようにすることが重要です。

ただし、肝炎ウイルスは空気感染はしませんので、常識的な注意事項を守っていれば、日常生活で感染することはまずありません。（医療従事者のように他人の血液に触れることの多い場合は除きます）。

◆感染予防の注意事項

- ・歯ブラシ、カミソリなど血液が付いている可能性のあるものを共用しない
- ・他の人の血液に触るときは、ゴム手袋を着ける
- ・注射器や注射針を共用して、非合法の薬剤（覚せい剤、麻薬等）の注射をしない
- ・入れ墨やピアスをするときには、適切に消毒された器具であることを必ず確かめる
- ・よく知らない相手との性行為にはコンドームを使用する

◆感染しない事例

- ・肝炎ウイルスに感染している人と握手した場合
- ・肝炎ウイルスに感染している人と抱き合った場合
- ・肝炎ウイルスに感染している人の隣に座った場合
- ・肝炎ウイルスに感染している人と食器を共用した場合
- ・肝炎ウイルスに感染している人と一緒に入浴した場合